

川上貞奴

芸者、女優、起業家、妾そして尼僧

桃介の私生活は非常に複雑でした。桃介は、有力な著者、詩人、翻訳家、記者で教育者でもあった福沢諭吉の娘、福沢フサと結婚していましたが、この別荘で公然と愛妾の川上貞奴（1871 年～1946 年）と同居していました。

このふたりが初めて出会ったのは、ふたりがまだ十代だったころ、乗馬中の貞奴を襲った犬の集団を桃介が追い払った時でした。貞奴は、日本社会の最も身分の高いパトロンを持つ芸者になり、伊藤博文首相に水揚げされましたが、1894 年に著名な喜劇俳優の川上音二郎と結婚しました。

貞奴は、音次郎の一座に加わり、欧米興行をした際に女優としての名声を手に入れました。従来は、劇場では男性が女性役も含めた全ての役を演じていたため、貞奴は日本の女優第一号として知られていました。貞奴は、1911 年に音次郎が亡くなった後、女優を引退し、名古屋に繊維会社を興しました。

貞奴は、桃介との関係により、元気を取り戻しました。ふたりは 1919 年から 1924 年までこの家で同居し、その間貞奴は桃介の事業について助言し、また有力な政治家や、見込みのある商売仲間を味方につけられるよう援助していました。町中をアメリカ製のバイクに乗って高速で駆け抜ける貞奴は有名人となっており、貞奴のバイクが近づいてくると、地元の子どもたちは、「妾だ妾だ」と騒ぎ立てました。

貞奴は老齢になると、私財で岐阜県各務原市の鵜沼に 1933 年に竣工した貞照寺を創建し、1946 年に死没しました。貞奴の華やかな生涯は、イギリス人ジャーナリストで作家でもあるレズリー・ダウナーが英語で著した伝記、『Madame Sadayakko: The Geisha who Seduced the West (マダム貞奴 ―世界に舞った芸者)』の題材となりました。